

交通基盤部発注工事の建設事故事例集

平成 28 年度版

静岡県交通基盤部建設支援局工事検査課

平成28年度 交通基盤部発注工事の建設工事事故事例

| No | 発生日時 | 被災者等 | 事故内容 | 事故状況 |
|----|---------------------------|---------|---------|--|
| 1 | H28.4.13 (水) 16:30 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | 土質調査が終了し、掘削機械(BH)を道路から片付ける際に、道路に設置してあった看板に建設機械が接触し、幼稚園看板及び支柱を破損した(人身事故なし)。 |
| 2 | H28.4.20 (水) 15:50 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | 仮排水路に設置されている大型土のうを撤去するため吊り機能付きバックホーで吊上げたところ吊上げようの帯が切れ反動でアームが上空のNTT引き込み配管を切断 |
| 3 | H28.5.25 (水) 10:00 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | バックホーで掘削中、中電の架空線(支線)を切断 |
| 4 | H28.6.1 (水) 11:30 | 第三者物損事故 | 飛び石 | 道路除草作業で飛石し走行中の車両のフロントガラスを破損 |
| 5 | H28.6.14 (火) 15:15 | 男46歳 | 転倒 | クローラクレーンに乗車しようとしたとき、足を踏み外し転倒しかかって踵から落ち骨折 |
| 6 | H28.6.29 (水) 9:30 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 土質調査のため車道をバックホウにて掘削していたところ、既設管(水道の引き込み線)を破損させた。掘削深度は1m程度。 |
| 7 | H28.6.29 (水) 17:15 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | 重機作業中、道路照明灯に接触し破損させた。 |
| 8 | H28.7.11 (月) 8:50 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | 高所作業車でチェーンソーを使用して枝払い中、電話線を破損 |
| 9 | H28.7.27 (水) 14:30 | 男35歳 | 転倒 | 重機(BH)から降りる時に、敷鉄板の上の土砂で右足首を滑らせた。 |
| 10 | H28.8.5 (金) 8:55 | 男38歳 | 玉かけ | 大型土のう撤去の玉かけ作業中に作業員が指を挟んだ。 |
| 11 | H28.8.20 (土) 14:15 | 男61歳 | 挟まれ | 集水ボーリング作業に使用する資機材をモノレールで運搬し荷卸し後、被災者が乗車しレバーブロックのチェーンが網目からはみ出しモノレール支柱に引っ掛かり停止したが、エンジン連結部に手を挟まれた。 |
| 12 | H28.8.20 (土) 9:20 | 第三者物損事故 | 飛び石 | 除草作業で飛石し乗用車のドア損傷 |
| 13 | H28.9.10 (土) 15:00 | 男68歳 | その他 | 茶樹伐採粉砕用トラクターのラジエーターキャップを開けたところ、蒸気が噴出し、胸及び右腕を火傷した。 |
| 14 | H28.9.27 (火) 10:00 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 路床入替工における掘削作業中に重機にて水道管を破損した。 |
| 15 | H28.11.3 (木) 15:00 | 第三者物損事故 | 飛び石 | 国道150号(掛川市浜野地内)の北側路側の草刈り時に飛石が東進中の軽乗用車のフロントガラスに当たり損傷した |
| 16 | H28.11.23 (水) 15:30 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 天竜川左岸県道路肩の除草作業中、堤外地側の法片部分にある水位計施設の配管施設を除草機械で破損させた |
| 17 | H28.12.14 (水) 13:20 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | バックホーで掘削中、NTTの架空線(引込線)に接触、取付金具が破損した。また、緩んだ架空線が中電架空線に絡まった。 |
| 18 | H28.12.22 (木) 10:30 | 男68歳 | 玉かけ | 4tダンプ荷台の大型土のうを4.9t吊りクレーンで荷卸し作業中に、吊上げの際玉かけを行っていた作業員が大型土のうに押しされ荷台から作業鋼板覆工板上に落下した |
| 19 | H28.12.28 (月) 15:45 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 詳細調査のため設置していた仮設の単管足場の撤去において、撤去作業中に単管パイプを落としてしまい、石積下端部に添加している排水管(現在不使用)を欠損させた。 |
| 20 | H29.1.10 (火) 10:35 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 側溝工の床掘作業中、水道の引込管(φ50)を破損させた。 |
| 21 | H29.1.12 (木) 10:00 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | バックホーで掘削中、水道管を破損 |

平成28年度 交通基盤部発注工事の建設工事事故事例

| No | 発生日時 | 被災者等 | 事故内容 | 事故状況 |
|----|--------------------------|---------|---------|--|
| 22 | H29.1.14 (土) 12:45 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | インバートコンクリート打設のため、バックホーにて生コン荷卸し中、NTT引込管(架空)を切断。 |
| 23 | H29.1.17 (火) 10:40 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 交差点改良に伴う土質調査業務委託の試掘作業時に水道管を破損・漏水。 |
| 24 | H29.1.18 (水) 12:50 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 路盤工における掘削作業中に重機で水道管(本管)を切断。 |
| 25 | H29.1.18 (水) 14:00 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 道路横断暗渠設置のための掘削作業時に水道管を破損・漏水。 |
| 26 | H29.1.19 (木) 13:05 | 第三者物損事故 | 飛散 | 注入工を施工中に、調査孔と思われ箇所よりモルタルが飛散し、自転車及びバイクに飛散した。 |
| 27 | H29.1.27 (金) 13:30 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 床掘作業中に重機で水道管(引込管)を破損 |
| 28 | H29.2.1 (水) 15:00 | 男27歳 | 飛来 | 足場資材をトラックに積み込み後、資材が風に煽られて荷台から1枚落ち、顔に当たり唇を切った。 |
| 29 | H29.2.21 (火) 11:30 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 側溝インバートをとりこわし中に重機で水道管(引込)を破損 |
| 30 | H29.2.24 (金) 14:30 | 第三者物損事故 | その他 | 片側交互通行規制区間内の車道を走行していた自転車がバランスを崩して転倒し、膝に擦り傷(ズボン及びタイトの破損)。 |
| 31 | H29.3.10 (金) 8:45 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | バックホウ0.15m3で床掘作業中、アームを信号機(歩行者用灯器)に接触・破損した。 |
| 32 | H29.3.10 (金) 17:00 | 第三者物損事故 | 架空線等破損 | バックホウを現場外へ搬出するため、自走していたところ、アームが上空のNTT電話引込線に接触し切断。 |
| 33 | H29.3.13 (月) 8:50 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | コンクリートカッターで民地のコンクリート土間を切断中、ガス管(民地引込管)を破損。 |
| 34 | H29.3.27 (月) 11:30 | 第三者物損事故 | 地下埋設物破損 | 流末側溝を施工するための、床掘作業中に温泉管を破損。 |

② 事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

| | | | |
|-------|------------------|------|-------------|
| 災害の種類 | 公衆災害：第三者物損事故 | 工事区分 | 土質調査(CBR調査) |
| 事故内容 | 看板破損 N=1基 | 被災者 | 性別・年齢 |
| 被災状況 | 小型BHが接触し幼稚園看板が変形 | | 職業 |

〔災害の概要〕

□現場の状況：

道路上での土質試料採取が終了し、業務代理人が運転する掘削機械(0.06m³BH)が、80m離れた作業車駐車場に向かって歩道上を自走していた。

□事故の概要：平成28年4月13日(水)16:30事故発生

歩道上を移動中のBH(0.06m³)が、前方に歩行者がいたため一旦停止し、安全確認後、再出発しようとしたところ上下に揺れて、上空にある幼稚園看板に接触し変形させた。

□安全対策の有無：有

- ①安全教育訓練(毎月1回実施)
- ②現場でのKY(毎朝)
- ③安全ミーティング(新規参入者教育)

〔再発防止策〕

□問題点：

①交通量が多い道路で規制による交通渋滞を避けたかったため、歩道上に歩行者がいなかったため、さらに交通誘導員(1名)を配置したなどの与条件があったものの、歩道上を自己判断で掘削機械(0.06m³BH)を自走(約80m)させたこと。

②業務代理人は事故後、直ちに被災者(幼稚園長)に謝罪したものの、先方が納得した様子であったことから軽微な損傷と自己判断して現場の詳細確認を怠ったこと。

③軽微な損傷で問題が解決したと自己判断し、些細なことでも報告するという認識に欠け、直ちに沼津土木事務所と本社への連絡を怠ったこと。

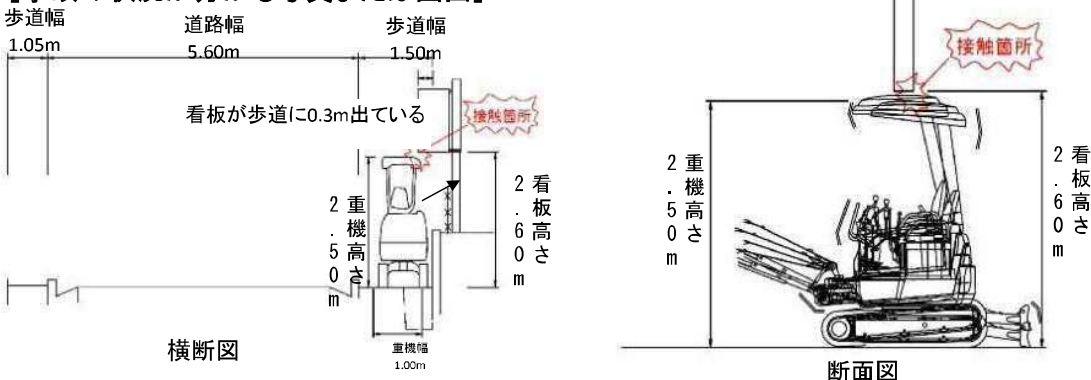
□防止対策：

①交通等の現場環境を考慮する適切な作業計画を記載した業務計画書作成するとともに、毎朝のKY活動では今回新たに作成した作業安全管理チェックリストの活用を徹底する。

②③業務計画書には、事故をはじめ周辺住民との些細な出来事でも報告するよう明記するとともに、社内教育を実施して周知徹底を図る。今回新たに作成した作業安全管理チェックリストを毎朝のKY活動で活用し、報告義務を常に認識した上で作業を行う。

※発注者と連携し指示を仰ぎながら、誠心誠意を持って被災者に対応する。損傷した看板は速やかに修復し、事態の終息を図る。

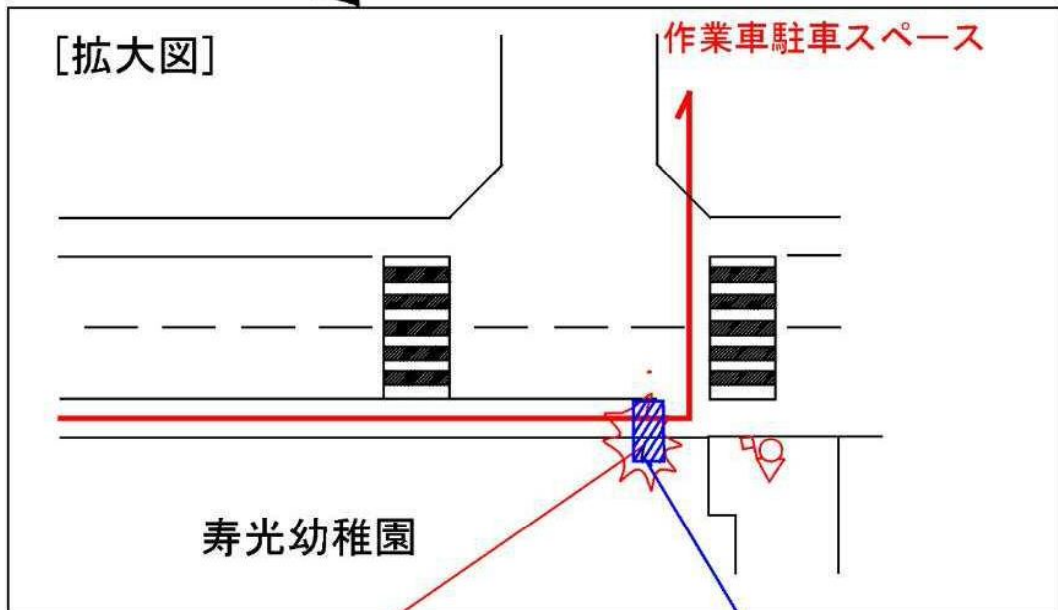
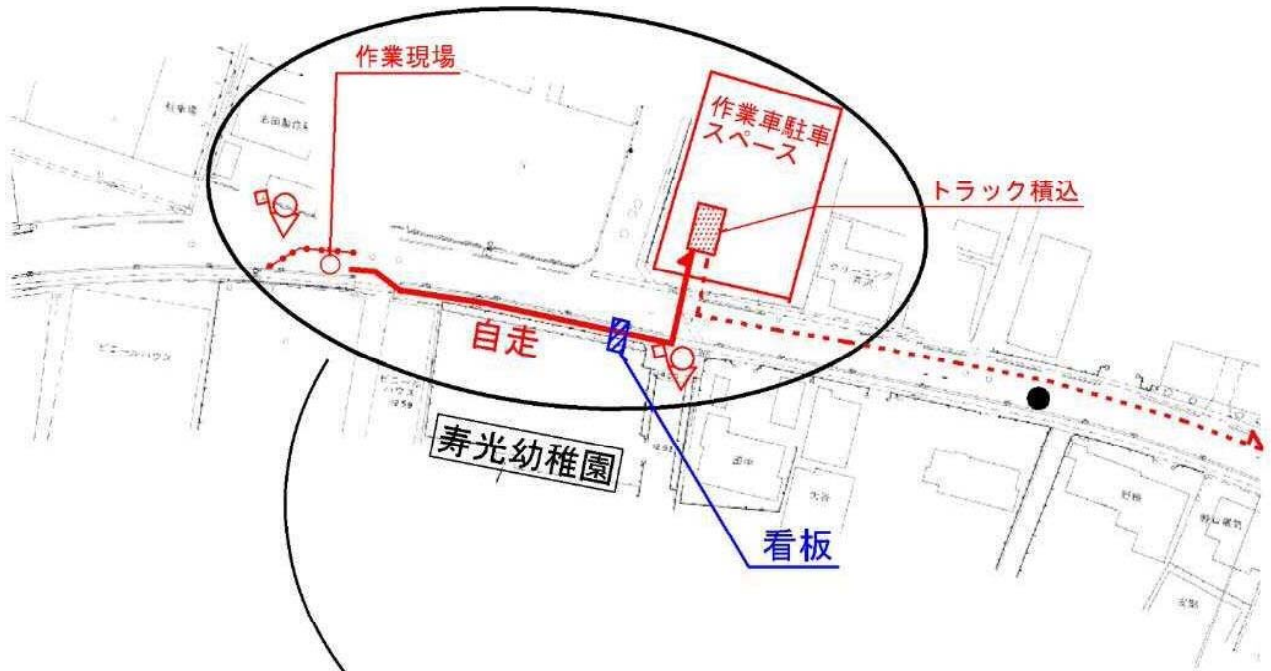
〔事故の状況が分かる写真または図面〕



※前方に歩行者がいたため、看板下で掘削機械(0.06m³BH)を一時停止
⇒安全確認後、0.06m³BHを再発進させる際、初動で上下に揺れて看板に接触して変形

[事故の状況が分かる写真または図面]

重機移動経路図



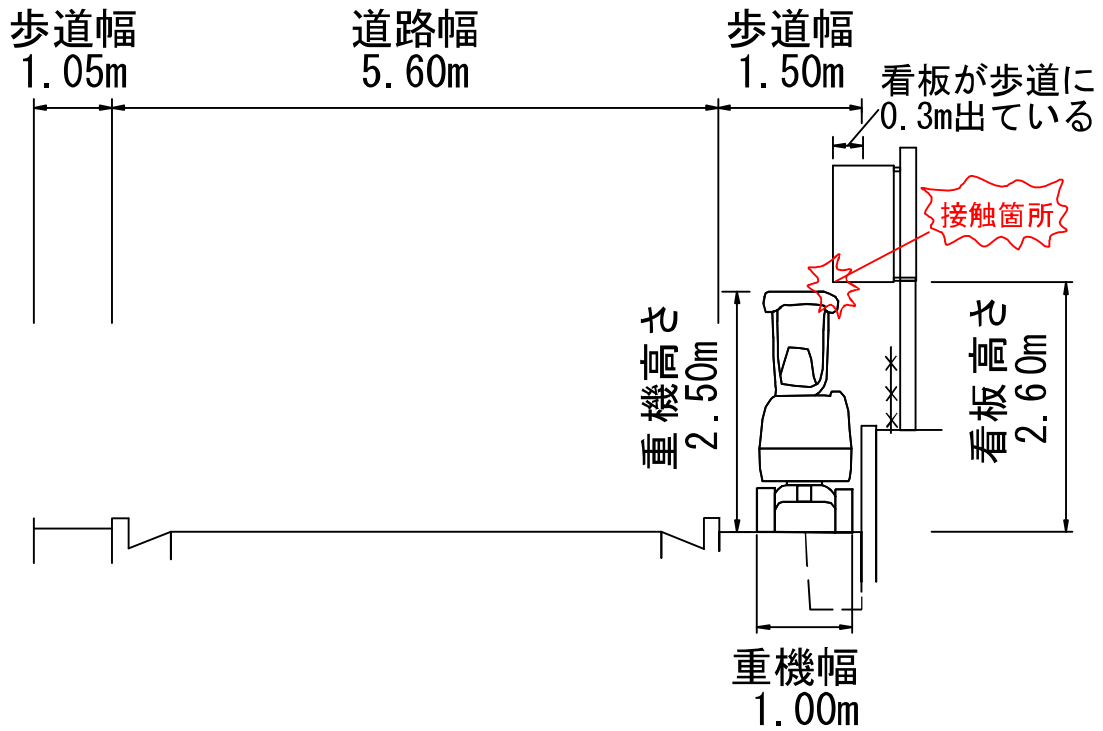
接触箇所

-  交通整理人
-  掘削機械 (BH : 0.06m³) 自走経路
-  トラック回送経路

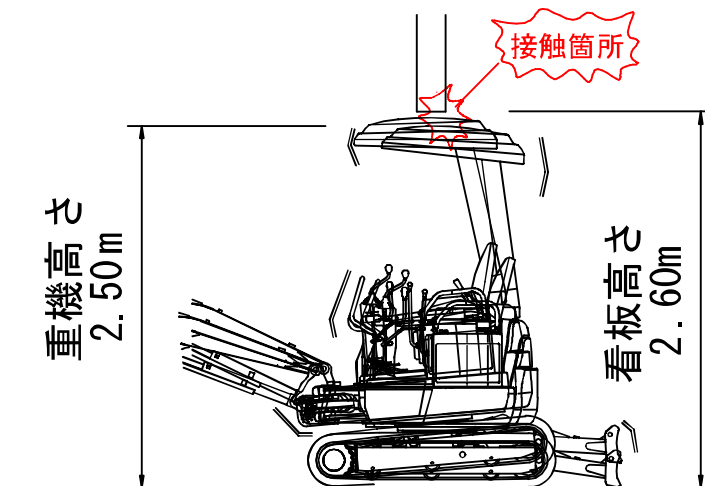
② 事故周知・再発防止 [平成28年度発生事例]

[事故の状況が分かる写真または図面]

横断図



側面図



※横断歩道に歩行者がいたため看板下にて重機を待機していた。

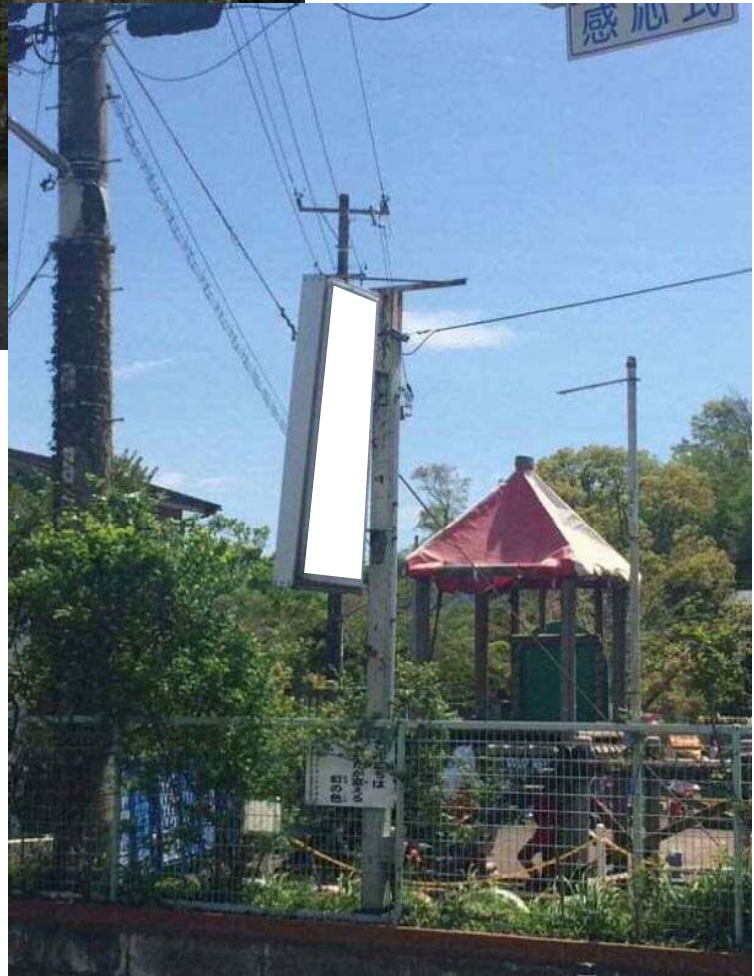
歩行者が横断歩道を渡り、重機を発進させる初動で上下に重機が揺れて看板に接触した。

② 事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



〔破損状況〕



事故周知・再発防止

| | | | |
|-------|----------------------------------|------|---------------|
| 災害の種類 | 公衆災害：第三者物損事故 | 工事区分 | 仮設土留工・大型土のう撤去 |
| 事故内容 | 大型土のう吊上げ作業時に、中一色第一ポンプ場引込のケーブルと接触 | 被災者 | 性別・年齢 職業 |
| 被災状況 | NTT通信ケーブル切断 | | |

【災害の概要】

□現場の状況 静岡県清水区小河内2地先（現場内）

平成28年4月20日 15時50分頃、大型土のう撤去作業にて、バックホウ（移動式クレーン型）による大型土のうの吊上げ直後に大型土のうの吊上げ帯が切れ、その反動により中一色第一ポンプ場引込みケーブルにバックホウアーム部分が接触し、切断した。発生した事故が中一色第一ポンプ場に引込まれている架空線の為、静岡県上下水道局（谷津浄水場）に事故の報告を行い切断された架空線の復旧等対応に集中し精神的に動揺していたため、発注者への報告が遅れてしまいました。なお、警察・労基への連絡は物損事故のため不要と判断してしまい連絡が遅れてしまった。

- 4/20 ・ 15:50 事故発生
- ・ 15:54 静岡県上下水道局・谷津浄水場
- ・ 16:10 現場代理人現場到着（仮排水路盛土材仮置場地権者との打合せ中であった）
- ・ 16:20 谷津浄水場担当者到着（中一色第一ポンプ場施設点検・打合せ）
- ・ 16:25 NTT工事課（修理班）より17:00頃現場に到着するとの連絡
- ・ 17:00 NTT引込ケーブル復旧工事開始 17:15 工事完了
- ・ 17:18 土木事務所工事第2課栗田監督員に報告
- ・ 17:40 清水警察署連絡（17:52事故・事件性なし）
- 4/21 ・ 8:40 静岡労働基準監督署報告（報告の対象外）
（4/20は労基の業務時間外となり連絡がつかなかった。）

- 安全対策：
- ①KY活動（作業開始前）
 - ②日常点検（車両系建設機械・玉掛け作業前点検）
 - ③作業箇所での危険予知及び作業手順の際確認
 - ④架空線注意の看板及び旗等の設置（架空線直下）

【再発防止策】

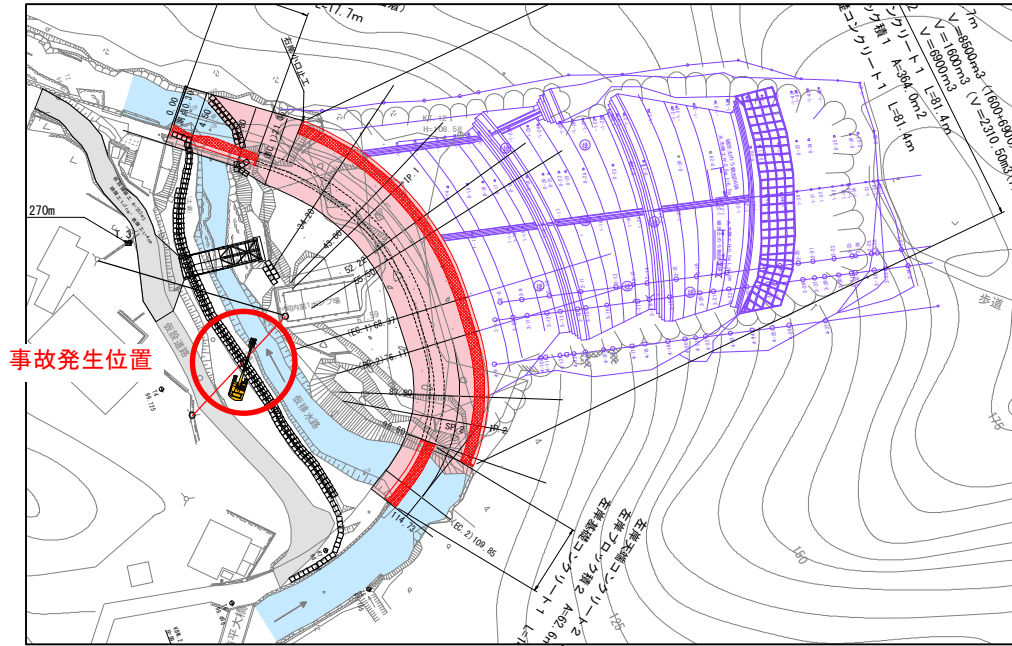
□事故原因：

- ①不十分な安全管理計画
 - ・現場内のNTT引込ケーブルを十分注意していたが、大型土のう吊上げ作業の具体的な安全対策の検討が乏しかった。
- ②不十分な安全確認
 - ・大型土のうは、平成26年10月に設置したものである為、劣化及び破損を予測出来たが、破損状況の点検や周辺の排土を行わず吊上げ作業を行った。
- ③不十分な安全指導
 - ・新規入場者教育とKY活動で、架空線直下での作業と玉掛け作業（大型土のう破損状況確認）に対する注意喚起を行っていなかった。
- ④不十分な安全管理
 - ・現場内のNTT引込ケーブルの明示が不十分だった。
 - ・NTT引込ケーブルの真下にバックホウを配置し、作業を行った。
- ⑤不十分な連絡体制
 - ・連絡体制の周知が不十分で、県への事故後の報告が遅れるなど、連絡の体制が機能しなかった。

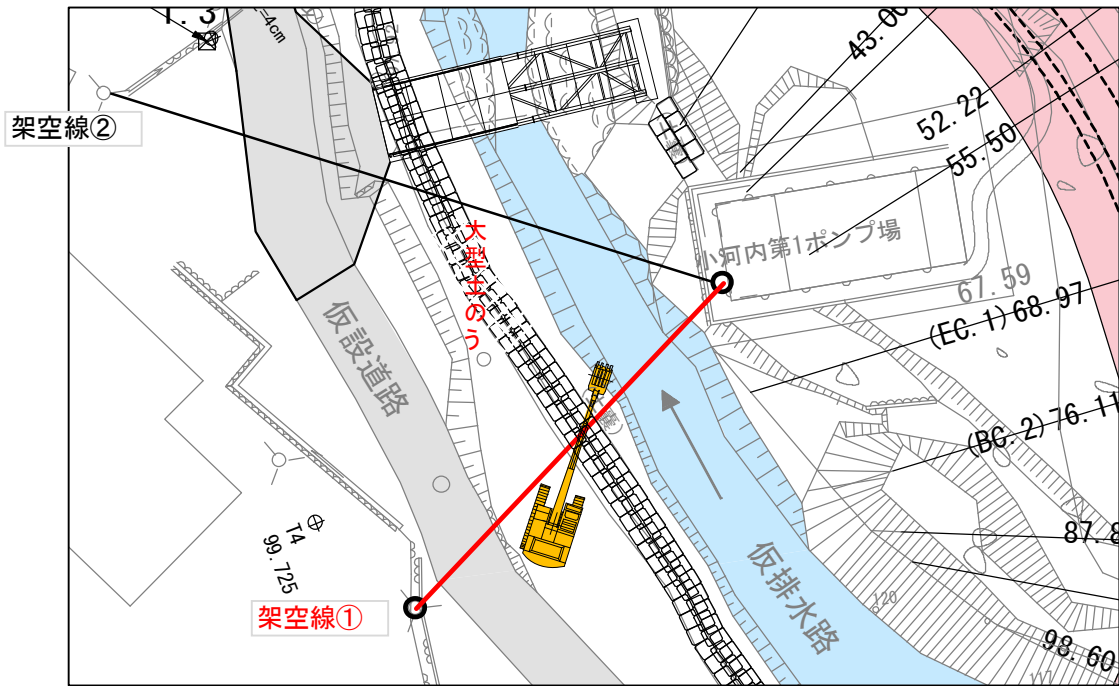
□防止対策：

- ①安全管理計画
 - ・架空線直下での具体的な作業手順書の作成。
- ②安全確認
 - ・大型土のう吊上げ作業時には周辺の排土を行い、大型土のうの破損状況の確認を十分行うとともに、地切りを確実に実施し吊上げを行う。
- ③安全指導
 - ・朝礼時に架空線直下での作業手順書による、作業手順の確認及び注意喚起を行う。
 - ・朝礼時に大型土のう吊上げ作業の合図方法や大型土のうの破損確認について、作業員全員で復唱を行う。
- ④安全管理
 - ・NTT引込ケーブル等場内架空線の明示を増やす。
 - ・NTT引込ケーブル直下に架空線注意の看板を設置する。
 - ・架空線直下でのバックホウ作業を防止するため、バックホウは架空線の上下流に配置し、架空線との離隔を確保するため、大型土のうの撤去は、仮排水路内から行う。
- ⑤緊急連絡体制の確認
 - ・社内安全会議や現場安全訓練等で緊急時の対応について周知徹底を行う。

事故発生位置図



現場状況図



事故発生時の状況

架空線明示状況

事故発生箇所図



大型土のう破損・切断箇所



使用機械 0.70mm クレーン機能付



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

| | | | |
|-------|--------------|------|-------------|
| 災害の種類 | 公衆災害：第三者物損事故 | 工事区分 | 河川工事 |
| 事故内容 | 中電柱支線の切断 | 被災者 | 性別・年齢 職業 |
| 被災状況 | - | | - |

〔災害の概要〕

□現場の状況：

右岸側の掘削が完了し左岸側掘削作業に伴い、作業ヤードの整地及び鋤取り作業を下流側よりバックホウ(200LC ロングアーム15m)により行っていた。また発生土をバックホウ(0.45m³)によりダンプトラック(10t積)に積み込み搬出作業を行っていた。

□事故の概要： 平成28年 5月25日(水曜日)

工事範囲内(工事起点より30m付近)に 中電柱支線1本及び送電線3本が横断している。(支線高さは作業ヤードより上空7.0m、送電線高さは作業ヤードより上空8.0m) バックホウ(200LCロングアーム15m)の作業ヤードは幅員4.0m、延長40.0mで延長方向にのみ移動可能。バケットを地上より0.5m上げ走行したところ、アームの最上部先端が支線に接触して引っ張られたため切断破損した。

□安全対策の有無 架空線注意旗(2箇所)設置済み。損傷した支線及び送電線は防護カバーはされていた。5月度安全訓練時、日常のKY活動時に架空線に関する安全対策の検討を実施。

〔再発防止策〕

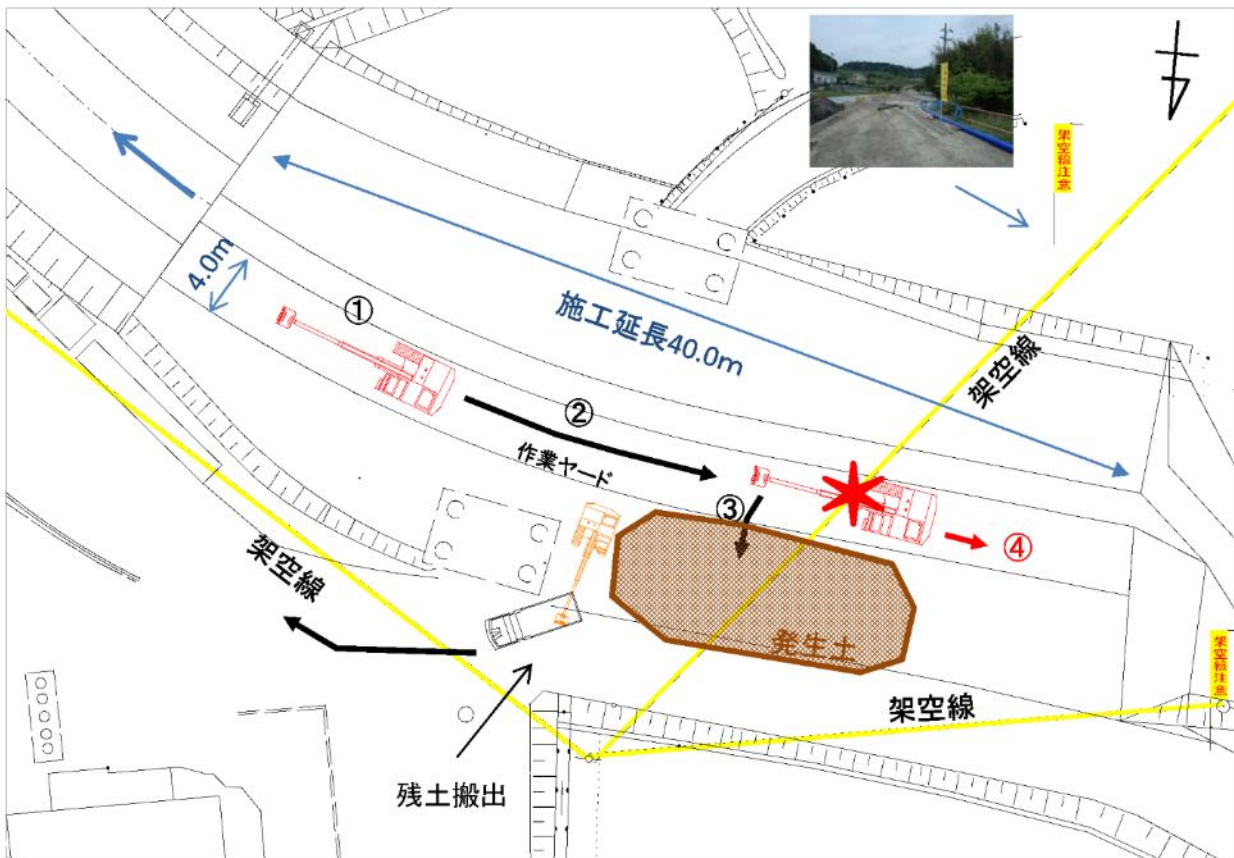
□問題点： 別紙〔再発防止対策〕参照

□防止対策： 別紙〔再発防止対策〕参照

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生時の作業状況

①作業開始 → ②整地作業進行(バック走行) → ③整地による発生土処理(左旋回) → ④バック走行時事故発生



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事 前



事 後



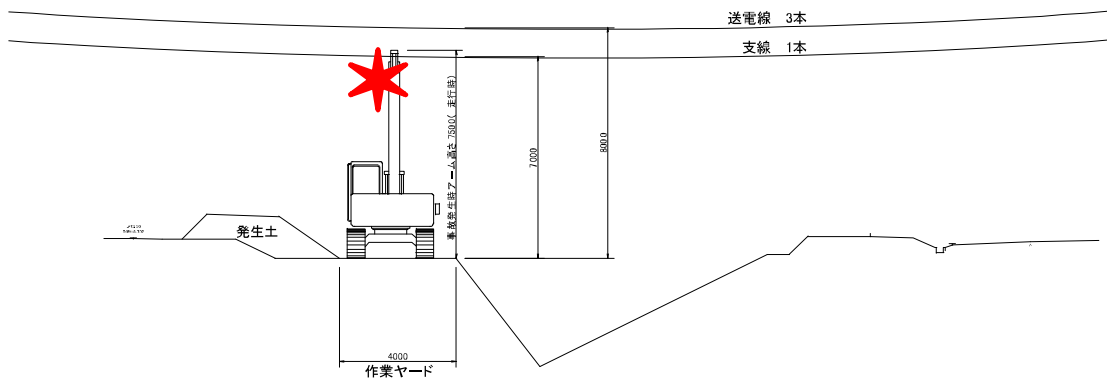
事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生状況(事後)



事故発生時横断

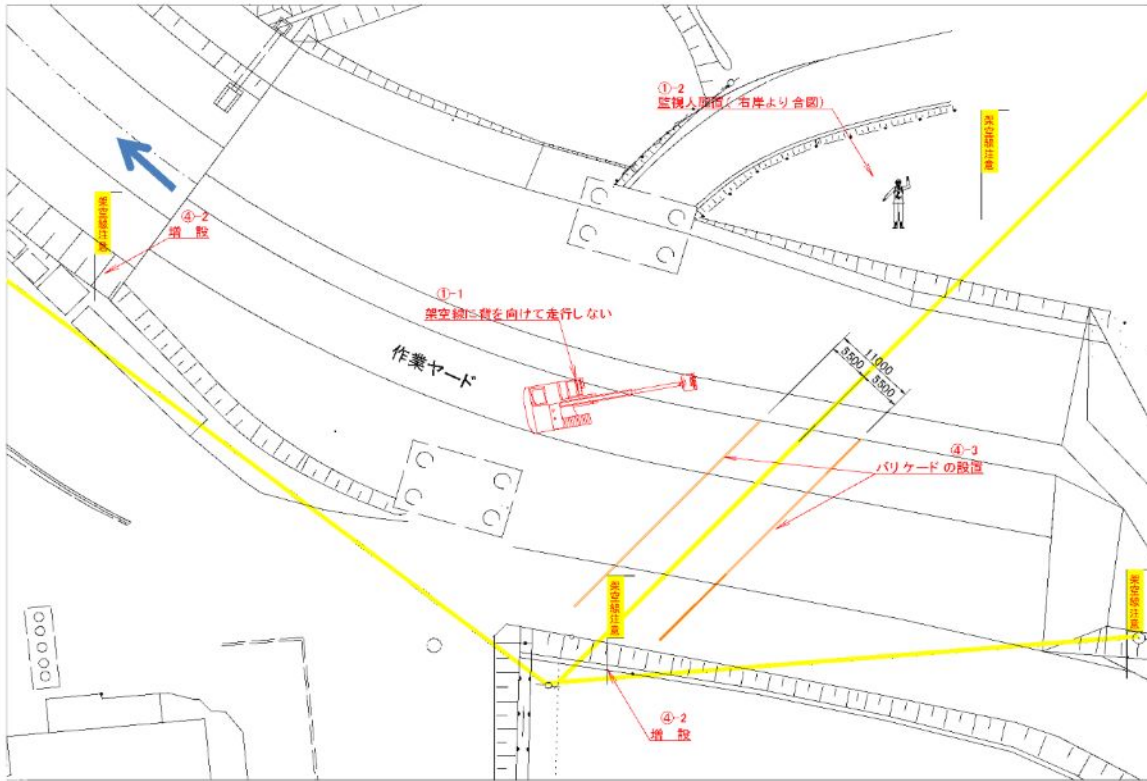


[再発防止策]

- 問題点：
- ① バックホウのオペレータが移動時に上空を確認していなかった事。
 - ② 作業内容(整地、鋤取り)に対するバックホウの選定に問題があった。
(作業ヤードの整地は他の小型バックホウでも行うことができた)
 - ③ バック走行を行う場合は誘導員を配置するべきであった。
 - ④ 直接、支線及び送電線に当たらないよう注意旗等の安全対策が不十分であった。

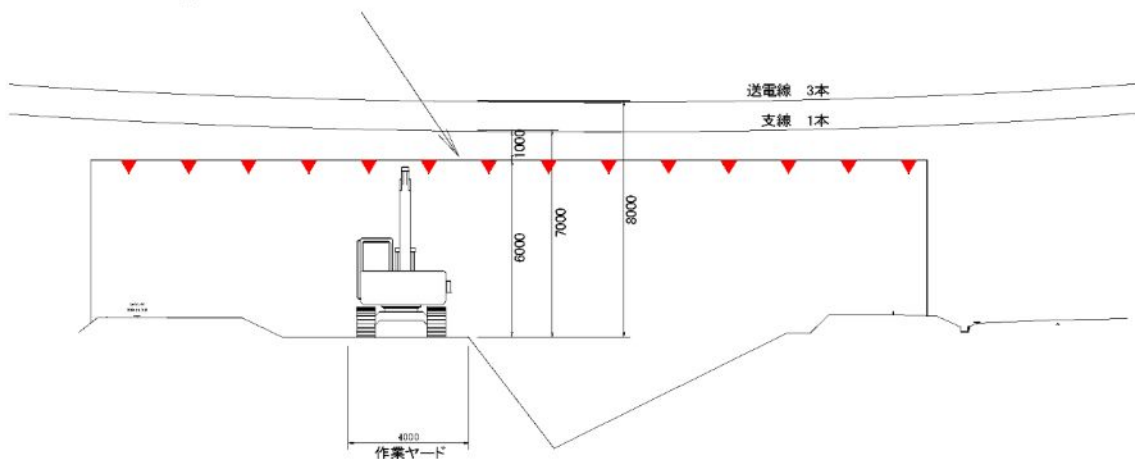
- 防止対策：
- ①-1 バックホウの移動する場合は架空線を直視できる方向に旋回し移動する。(平面図)
 - ①-2 バックホウ(200LCロングアーム15m)の稼働時は監視人を常駐する。(平面図)
 - ②-1 作業重機について目的に応じた機種を選定をする。
 - ②-2 工事再開までに臨時の安全訓練を実施し、各重機の作業半径等について作業従事者に周知を図る。
 - ③ バック走行させる場合は誘導員を配置する。
 - ④-1 支線の下部-1.0mの高さに注意旗を設置する。(横断面図)
 - ④-2 架空線注意旗を見やすい場所に増設する。(平面図)
 - ④-3 架空線より5.5mの位置にバリケードを設置し作業区分を図る。(平面図)

防止対策平面図



防止対策横断面図

④-1 注意旗の設置



事故周知・再発防止

| | | | |
|-------|--------------|------|-------------------|
| 災害の種類 | 公衆災害：第三者物損事故 | 工事区分 | 道路維持 |
| 事故内容 | 飛石事故 | 被災者 | 性別・年齢 女性 30歳前後 |
| 被災状況 | フロントガラス損傷 | 職業 | |

[災害の概要]

□現場の状況：

県道河原大井川港線の上り線の除草作業中

□事故の概要： 平成28年6月1日(水曜日)午前11時30分頃

県道河原大井川港線の上り線を除草中、飛石によりと南進中の車両(軽自動車)のフロントガラスを破損させた。

□安全対策の有無 飛石防護対策を実施していた。

[再発防止策]

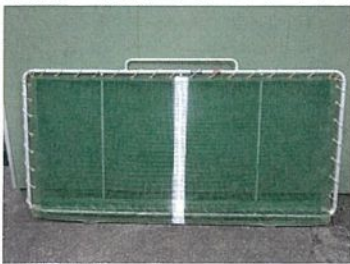
□問題点：

- ① 飛石防止ネットを使用していたが、ネットの位置と草刈機の位置が合っていなかった。
- ② 飛石対策の重要性について、作業員の認識が欠けていた。

□防止対策：

- ①-1 草刈機を使用する作業員とネットを持つ作業員のペアで、事前に作業方法及び合図(声掛け・指差し)方法について打合せをする。
作業中は、密に合図を取り合い、意思疎通を図る。
- ①-2 飛石防止ネットのセンターにラインを引き、ネットの配置位置の目印とする。
- ①-3 ネットを持つ作業員の立ち位置は、草刈機進行方向前方のネット先端付近とし、作業員と草刈機の動きをよく確認する。
この位置で持つことにより、以下の対策を兼ねる。
 - A. 作業箇所へ接近する走行車両を確認することができる。
 - B. 作業箇所前方に立つので、草刈前に障害物等を発見しやすい。
 - C. 草刈機使用者と意思疎通が図りやすい。
 - D. 草刈機と適度な距離を保て、跳ね返りによる被災を防ぐことができる。

【対策①-2 飛石防止ネット センターライン】



【対策①-3 ネット持ち作業員立ち位置】

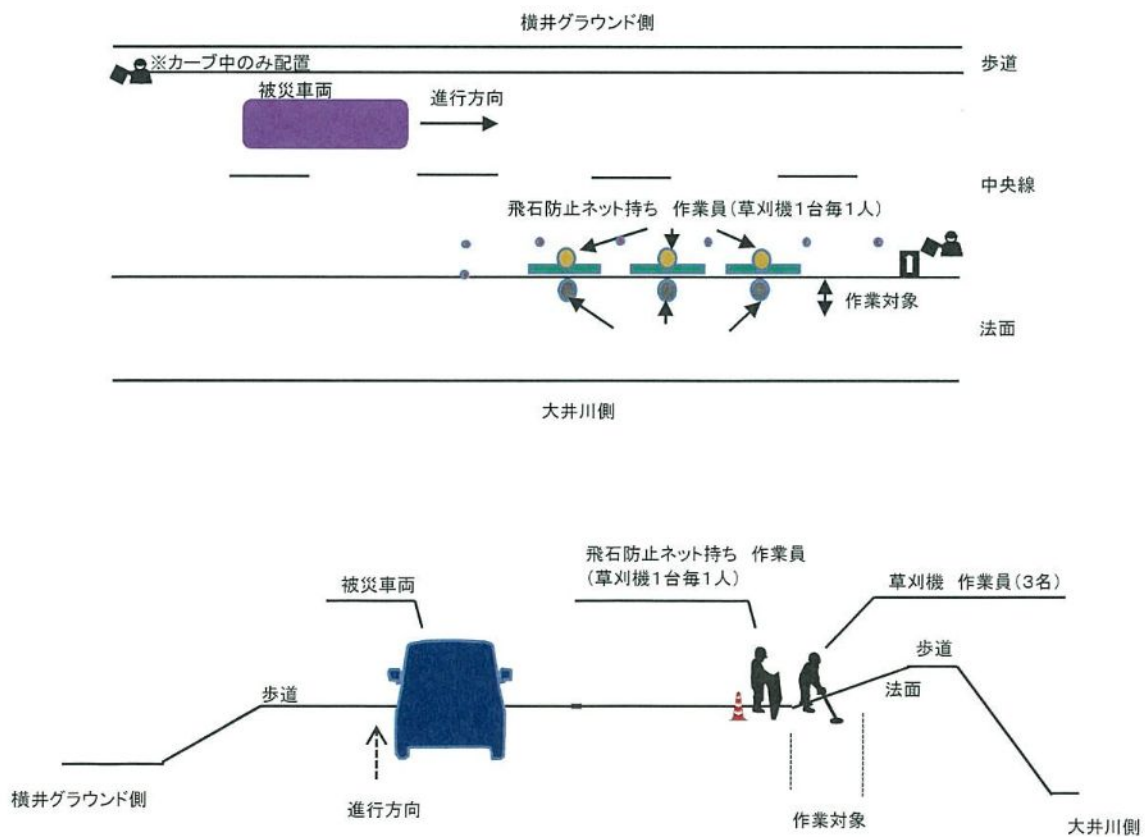


- ②-1 作業員全員参加の再発防止会議を実施し、作業員全員に周知徹底を図った。
- ②-2 石の多い場所で草刈機を稼働させ、飛石発生状況を検証し、作業員全員に安全な作業方法について、周知徹底を図った。

事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生箇所 県道河原大井川港線 島田市横井4丁目地内



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

作業状況写真



被災状況



車種:スズキパレット
被災状況:フロントガラス中央上部損傷(ひび割れ)



事故周知・再発防止〔平成 28 年度発生事例〕

| | | | |
|-------|------------|------|----------------|
| 災害の種類 | 労働災害：墜落、転落 | 工事区分 | 法面工(仮設防護柵工) |
| 事故内容 | 重機乗り込み時の墜落 | 被災者 | 性別・年齢 男 46歳 |
| 被災状況 | 右足(かかと)骨折 | 職 業 | 現場代理人 |

〔災害の概要〕

現場の状況：
 県道上で、道路規制(時間帯通行止め)にて法面工事を行っていた。
 通行止時間帯 平日(9:00～10:00,10:15～12:00,13:00～14:45,15:00～16:30)

事故の概要： 平成28年 6月 14日(火曜日)
 当日は、仮設防護柵の土留材をクローラークレーン(4.9ト吊)で吊上げ、H鋼支柱への設置作業を行っていた。
 被災者は、クローラークレーンの操作をして、土留材の吊上げ作業を行っていた。
 災害発生時、被災者は一度クローラークレーンから降りて、作業員への指示及び施工状況を近くで確認した後に、
 再びクローラークレーンに乗り込もうとしたが、足を滑らせ、バランスを崩し約1.2m程の高さから地面に片足(右足)で着地した。右足で着地はしたが、骨折をしてしまった。
 ※当社では、クローラークレーン運転手は3名在籍しているが、当日は外2名が外現場に従事していた為、現場代理人がクローラークレーンの運転をしていた。

安全対策の有無 作業前ミーティング、危険予知活動、交通誘導員配置(2名)、

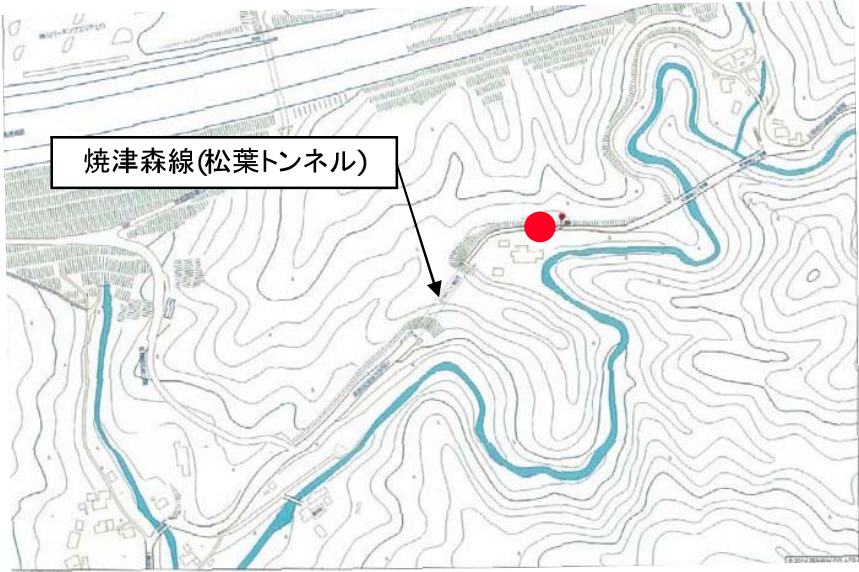
〔再発防止策〕

問題点：
 ① 足掛け位置が1.2m程と低かったので、乗り込みに油断をしてしまった。
 ② 朝方に降った雨で長靴に泥が付着し、滑りやすかった。

防止対策：
 ① 手摺り位置に反射テープを貼り、昇降時の墜落の注意を促す。
 ② 足洗い用具を常備し、泥等を除去し足元の滑りによる転倒・墜落を防ぐ。
 安全靴を着用する。
 ヒヤリハット報告書を活用して、作業員全員で危険箇所の共有・確認を図る。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生位置図

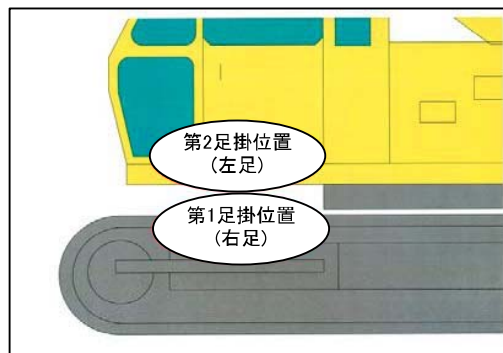
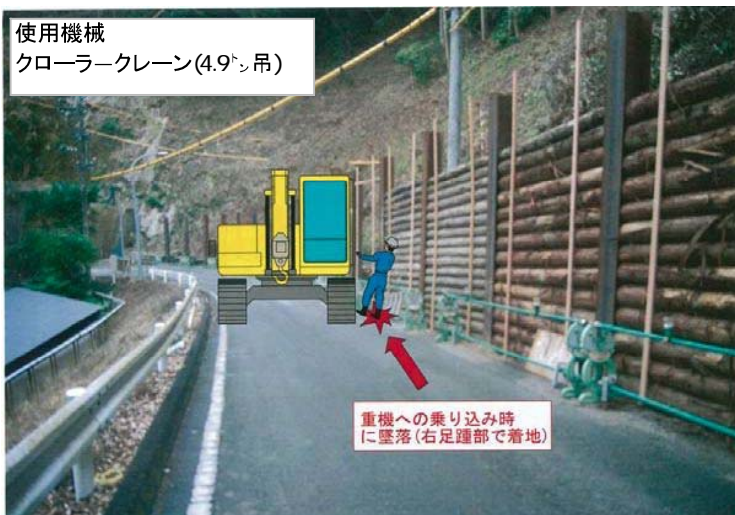


事故周知・再発防止〔平成 28 年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生状況

使用機械
クローラークレーン(4.9ト吊)



※ 災害発生時、重機への乗り込み方法は、クローラー部に右足を掛け、キャビン部に左足を掛けた時に、左足が滑り墜落してしまっ

問題点：① 足掛け位置が1.2m程と低かったため、乗り込みに油断をしてしまった。

再発防止対策：① 手摺り位置にテープを貼り、昇降時の墜落の注意を促す。

手摺りの明示



昇降方法の確認



事故周知・再発防止〔平成 28 年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

問題点： ② 朝方に降った雨で長靴に泥が付着し、滑りやすかった。

再発防止対策： ② 足洗い用具を常備し、泥等を除去し足元の滑りによる転倒・墜落を防ぐ。
安全靴を着用する。

ヒヤリハット報告書を活用して、作業員全員で危険箇所の共有・確認を図る。



足洗い用具の現場配置

ヒヤリハット報告書を使用し、
作業員全員で危険な作業方法・
危険箇所の検討を常に行い、
事故や災害に対する対策を
講じ、未然に災害等を防ぐように
努めます。

ヒヤリ・ハット 報告書 (参考)

所属 _____ 氏名 _____

- いつ：平成 28 年 6 月 14 日 火曜日 午前・午後 3 時 15 分頃
- どこで：（通勤途中、現場（工事の種類）内・外等の概要）
現場内 仮設防護柵 土留材設置時
- だれが

- どのような状況の時に
クローラークレーンへの乗り込み時に、
足元が滑り墜落しそうになった。

- ヒヤリ・ハットしたこと(予想される災害・事故)
墜落し体を地面へ打ち付ける。
捻挫・骨折・全身打撲等

- 報告者の対策案
足元の滑り防止→作業靴の清掃

【現場略図】



上記について事業所長の対応・処置
作業靴の泥等の除去用具の用意・設置

※ この報告書は、「ヒヤリ」としたり、「ハッ」としたけれども、事故や災害に至らずに済んだ出来事を報告するものです。ここでは、いつ・どこで・何が起きようとしたか発表して、その事例や起こりそうになった原因を見直すことで、事故や災害の予防にしようとするものです。
小さなヒヤリ・ハットも見逃さず共有し、事前に対策を講じておくことで、大きな災害などを未然に防ぎましょう。

受付印

事故周知・再発防止

| | | | |
|-------|--------------------------|-------------|------------|
| 災害の種類 | 公衆災害:第三者物損事故 | 工事区分 | 土質調査業務委託 |
| 事故内容 | 既設水道管破損 | 被 災 者 | 性別・年齢 - |
| 被災状況 | 既設水道管 φ25mm破損 店舗1軒 断水 | 職業 | - |

【災害の概要】

□現場の状況

一般県道伊東川奈八幡野線(県道109号)上で土質調査による道路掘削をおこなっていた。GL-1.0m付近に既存調査図面に未記載の水道管(給水管)が敷設されており、掘削時に継ぎ手部分を損傷した。

□事故の概要

平成28年6月29日午前9時30分頃、土質調査のため(一)伊東川奈八幡野線にてバックホウを補助的に使用し、掘削を行っていたところ、道路を横断して敷設されたφ25mm鋼製の水道管(継ぎ手部分)を損傷した。この結果、調査地北側の洋品店「MIRO」の断水を引き起こした。水道管理者立ち会いのもと、午後1時頃、復旧を完了した。

□安全対策の有無 事前に管理者への埋設状況確認(配管図等を入手)

【再発防止策】

□問題点

- ①埋設管の状況は電気、ガス、水道それぞれの管理者に確認し位置を把握していたが、水道については資料にない配管が敷設されていた。
- ②φ50~400mm程度の大礫や玉石が含まれる埋め土であったため、機械を補助的に使用していたため、埋設物への配慮が十分でなかった。

□防止対策

- ①図示されていない水道管を想定し、掘削予定位置付近の建物の水道メーターや止水弁から管路を予測、必要に応じて掘削位置を変更する。また、直近の建物の水道メーターだけでなく、対向車線側の構造物も参考にする。
- ②通常、水道管等の埋設物が敷設されている深度(GL-1.3m程度)までは特に慎重に確認し、掘削を行う。(業者への再度徹底)
- ③地層内に玉石や岩盤等、硬質で埋設物と疑われるものが確認された場合、その都度スコップやバールなどで慎重に確認を行う。
- ④周囲の地盤と異なる埋戻し土と思われる土質が確認された場合、特に注意を払って掘削を行う。

【事故の状況が分かる写真または図面】



事故直後の状況



損傷部(継ぎ手部分)



埋設管深さ確認(GL-1.0m付近)



埋設管深さ確認(GL-1.0m付近)

[事故の状況が分かる写真または図面]



給水管復旧完了(道路部)・伊東市杉山氏立会



給水管復旧完了(歩道部)・伊東市杉山氏立会



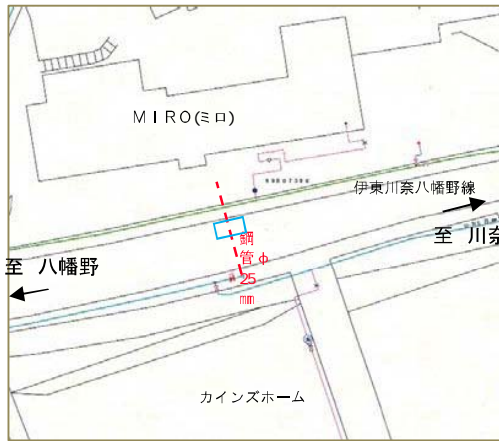
防護ダスト厚さ(H=20cm)



埋設標示シート敷設

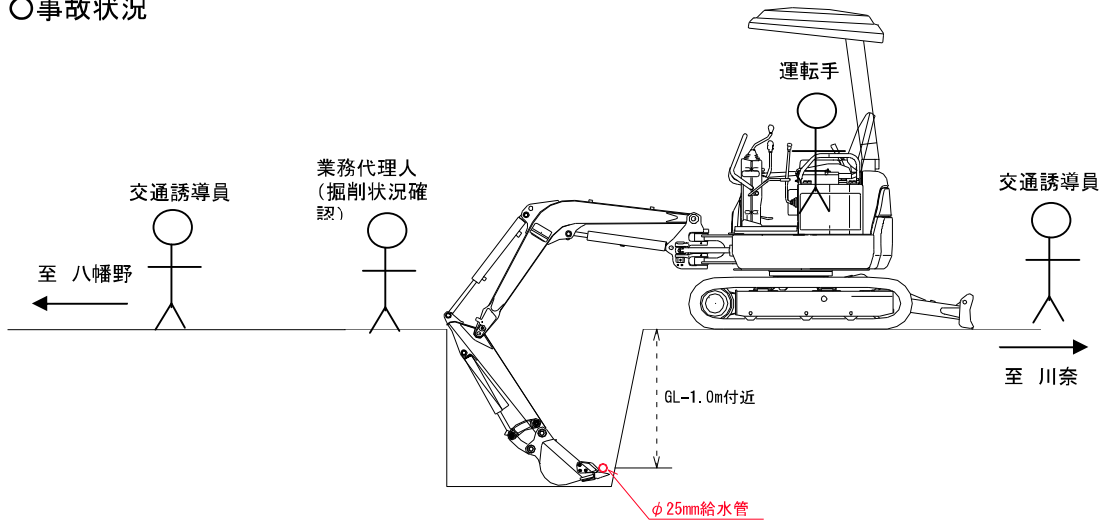


伊東市提供の配管図面



実際の配管状況

○事故状況



事故周知・再発防止〔平成28年度発生〕

| | | | |
|--|--------------------|------|--------|
| 災害の種類 | 公衆災害: 第三者物損事故 | 工事区分 | 透水性路盤工 |
| 事故内容 | バックホウが旋回した際、照明灯を破損 | 被災者 | 性別・年齢 |
| 被災状況 | 照明灯1個破損(損害額: 23万円) | | 職業 |
| <p>〔災害の概要〕</p> <p><input type="checkbox"/> 現場の状況：静岡県賀茂郡西伊豆町 仁科地内(現場内起点からL=35m付近)</p> <p><input type="checkbox"/> 事故の概要：平成28年6月29日(水曜日) PM 5:13頃 工事名:平成28年度[第27-D9201-01号](国)136号 県単交通安全施設整備工事(カラー舗装工)(11-01) 工期:平成28年5月24日～平成28年7月29日</p> <p>平成28年6月29日 PM5時13分、現場代理人がバックホウオペレーターに、終業なので片付けるよう指示した。オペレーターは、重機待機場所の駐車場に進入するため、ブームをたたんで旋回した際に、照明灯(占有者:西伊豆町)にブームの先端が接触し破損させた。 PM5時13分頃に西伊豆町へ連絡した。 PM5時20分頃に下田土木松崎支所班長及び担当監督員が現場到着。その場で照明灯事故を報告した。</p> <p>平成28年6月30日AM8:20警察へ連絡し、現場検証となった。 警察の実況見分によると、歩道上の交通事故ではなく、物損事故であると判断された。(事件性なし)被災者及び事件性が無いことから、受注者は労基署への連絡は不要と判断した。 また、警察より歩行者への危険回避のため、破損した照明灯の撤去を指示され、7月1日に撤去した。</p> <p>6月29日 17:10頃 別件で現場代理人より現地確認の依頼があり、班長・担当監督員が現場へ出発 17:13頃 事故発生 17:20頃 松崎支所班長、担当監督員現場到着 17:30頃 照明灯事故報告(松崎支所班長、担当監督員) 18:30頃 現場立会終了し、安全対策(コーン・赤色灯)をした後現場開放 18:45頃 土木松崎支所へ安全対策設置の連絡</p> <p>6月30日 8:20頃 警察へ通報 8:40頃 警察官到着。その後松崎分署刑事到着し実況見分を行った。 9:55頃 受注者支店長到着、刑事から説明を受ける。現場代理人は警察署にて安全書類(施工計画書)を提出した。 10:20頃 照明灯撤去の指示を警察から受け、現場代理人は西伊豆町が業務委託している西伊豆電気商会に撤去依頼。7月1日撤去して仮設の照明を設置した。</p> <p><input type="checkbox"/> 安全対策の有無：毎朝の朝礼で、照明灯に気を付けるよう指示し、KY活動、リスクアセスメントを実施している。</p> | | | |
| <p>〔再発防止策〕</p> <p><input type="checkbox"/> 事故原因： 1. オペレーターの確認不足 2. 終業時間となり、慌てていた。 3. 作業中バックホウ旋回時は誘導員が合図して作業していたが、片付け時は誘導員が他作業の誘導をしていた。</p> <p><input type="checkbox"/> 防止対策： 1. バックホウ作業時は必ず誘導員を配置し、誘導員の指差し呼称で移動、旋回させる。 2. 旋回移動時は必ず前後、左右、上下の声だし確認をさせる。 3. 毎日の朝礼時にオペレーターに声だし確認、誘導員に指差し呼称の訓練をさせる。 4. 誘導員は重機が止まるまで持ち場を離れない。 5. 上空支障物の近くでは旋回しない。 6. 照明灯箇所上部注意の看板を掲示する。</p> | | | |

事故周知・再発防止〔平成28年度発生〕

[事故の状況が分かる写真または図面]

事故発生位置図

賀茂郡西伊豆町 仁科地内



現場状況図



事故周知・再発防止〔平成28年度発生〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成28年度発生〕

[事故の状況が分かる写真または図面]

再発防止案(誘導員の配置の徹底)



バックホウ作業時誘導員配置

再発防止案(看板の掲示)



掲示板の設置



事故周知・再発防止〔平成28年度発生〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



取り外し状況



撤去完了

再発防止防止会議〔平成28年度 小規模②〕

| | | | |
|-------|----------------|------|---------|
| 災害の種類 | 物損事故 | 工事区分 | 小規模修繕委託 |
| 事故内容 | 電話線破損 | 被災者 | 性別・年齢 |
| 被災状況 | チェーンソーの接触による破損 | | 職業 |

〔災害の概要〕

□現場の状況：

道路上で、高所作業車にて、チェーンソーを使用し、車両通行に支障となる道路に張り出した枝の伐採作業を実施していた。

□事故の概要： 平成28年7月11日（月）8:50事故発生（推定）

- ・現場は沿道の樹木の枝が垂れ下がっており、垂れ下がった枝の中に多数の電線が存在している状況。
- ・作業前に、電話線の存在は確認していたため、枝払い作業は慎重に行っていたが、枝を切断した瞬間、チェーンソーが下がり、チェーンソー刃先が電話線に接触したものと想定される。
- ・作業は、伐採作業をする者と、伐採した枝を回収する者及び現場監督員の構成で実施していたが、作業時に電話線の破損に気が付かなかった。

□安全対策の有無：有

- ①朝礼時に、本日の作業予定と注意事項を確認

〔再発防止策〕

□問題点

①伐採作業者は、電話線の存在は確認していたものの、例年実施している伐採作業であったため慣れが生じ、注意力が不足していた。

②小規模委託業務においては、業務計画書の定めがないため、作業計画を綿密に立てることがなかった。

③近隣住民より電話線破損の可能性について調査依頼があったものの、破損の認識がなかったため地上からの目視調査に留まってしまった。調査が行き届かず発見が遅れ、復旧が遅れが生じた。

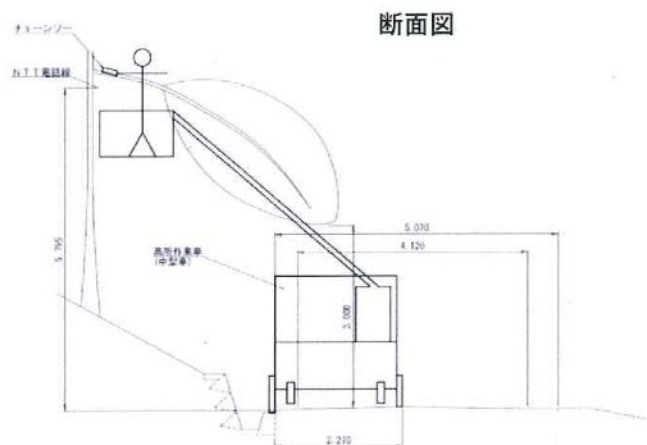
□防止対策：

①作業前の安全確認を徹底し、伐採作業開始前に電話線を確認し赤旗を付ける。赤旗は針金をとった物で簡単に電話線にかけられるようにする。

②最初に電話線廻りを伐採する。その際は伐採作業以外の者も、作業を監視し、危険と思われたら笛等で知らせる。

③高所作業車を移動させる前に、作業による破損の可能性を踏まえ、伐採作業車から伐採したところを目視確認する。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔現地の状況1〕



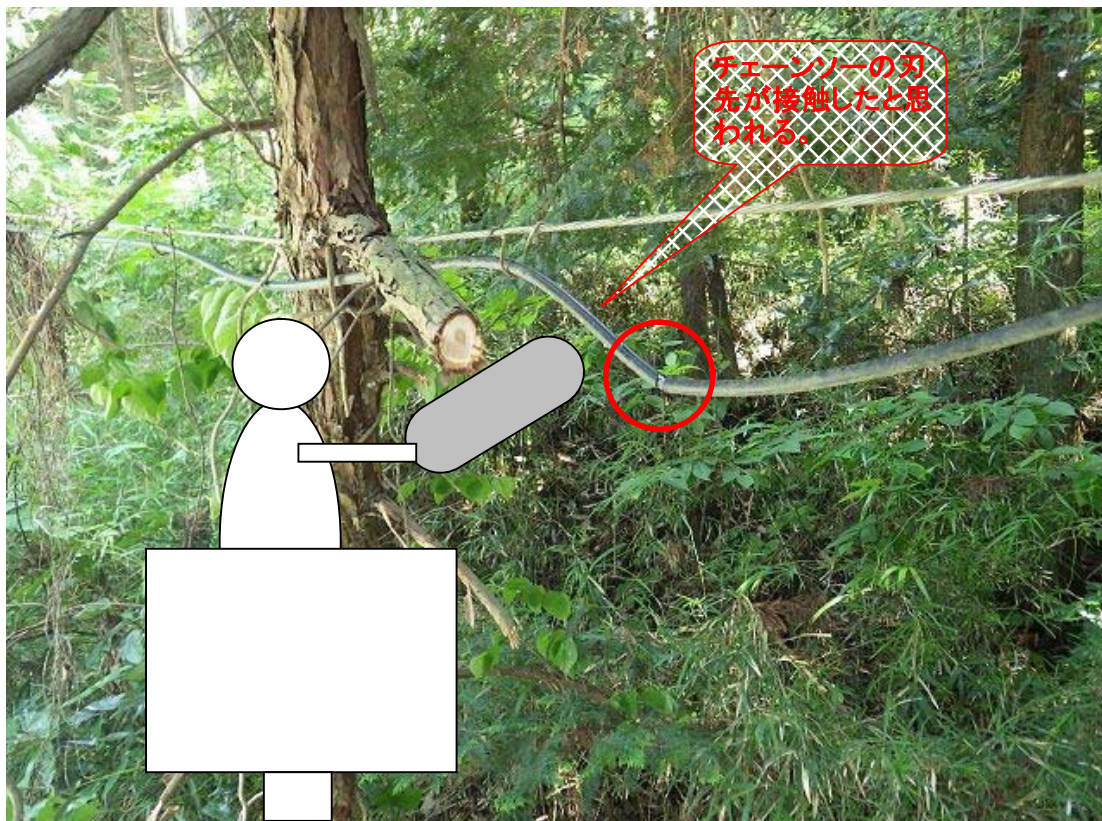
事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔現地の状況2〕



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

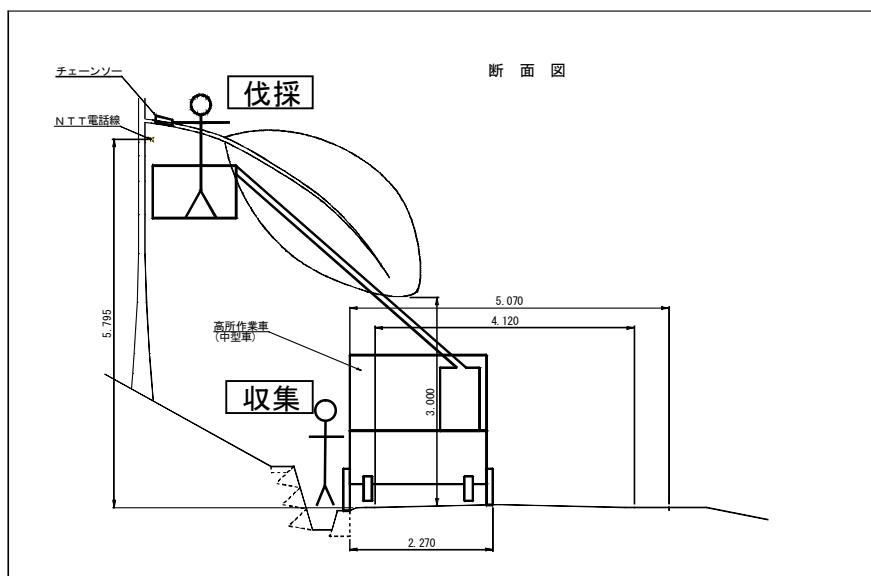
〔事故の状況〕



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔再発防止策〕

① 伐採作業

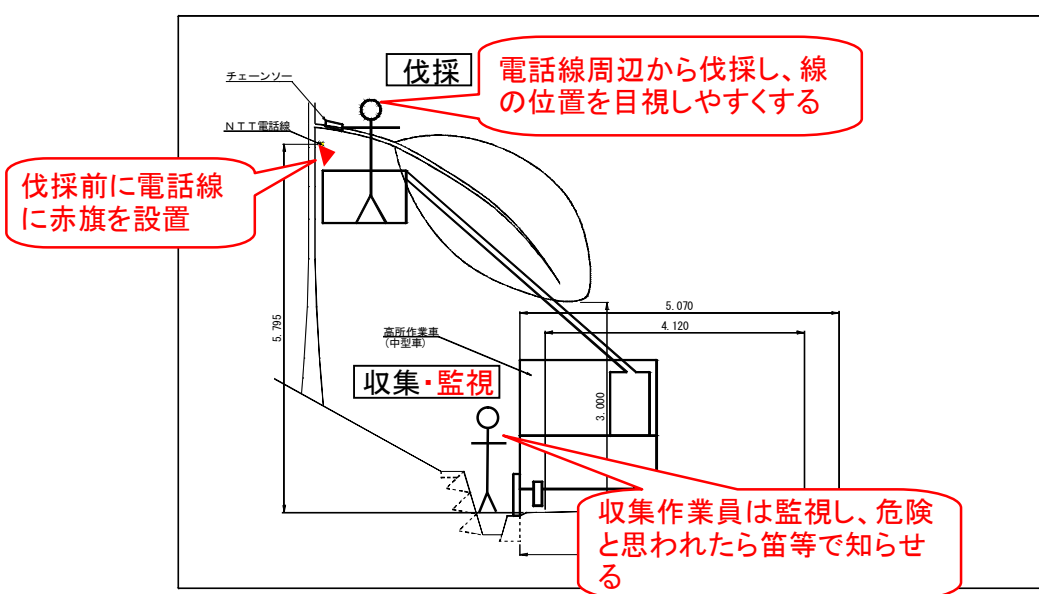


〔問題点〕

- ・伐採作業は、枝打ち作業員が単独で状況を確認のうえ実施していた。
- ・下にいる作業員は伐採された枝を回収するのみであり、監視体制が不十分であった。

〔防止対策〕

- ・作業前の安全確認を徹底し、伐採作業前に電話線を確認のうえ、赤旗を付ける。
- ・枝打ち作業員は枝打ち前に電話線の位置を確認し、そのまわりから枝打ちを行う。
- ・伐採作業以外の作業員も、伐採作業を監視し、危険と思われたら笛等で知らせる。
- ・事前に電線管理者に連絡のうえ、作業時の立会やケーブルの防護を求める。



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

| | | | |
|-------|----------|------|----------------|
| 災害の種類 | 墜落 | 工事区分 | 土工 |
| 事故内容 | 重機降り時の墜落 | 被災者 | 性別・年齢 男 35歳 |
| 被災状況 | 右足踝靭帯断裂 | 職業 | 作業員 |

〔災害の概要〕

□現場の状況：

仮囲いされた現場内において、地盤置換のため、地盤掘削及び搬出作業が行われていた。

□事故の概要： 平成28年7月27日(水曜日)

負傷者は、0.7m³バックホウにより地盤掘削作業を行っていた。被災者は、バックホウから降りる際に、敷鉄板上の少量の土砂で足を滑らせ右足首を捻った。当日は作業を続けたが、翌朝、痛みが引かないので病院で診察を受けた結果、靭帯断裂と診断された。

□安全対策の有無 作業前ミーティング、危険予知活動、足洗い用具の配置、休憩所の配置
交通誘導員配置(1名)

〔再発防止策〕

□問題点：

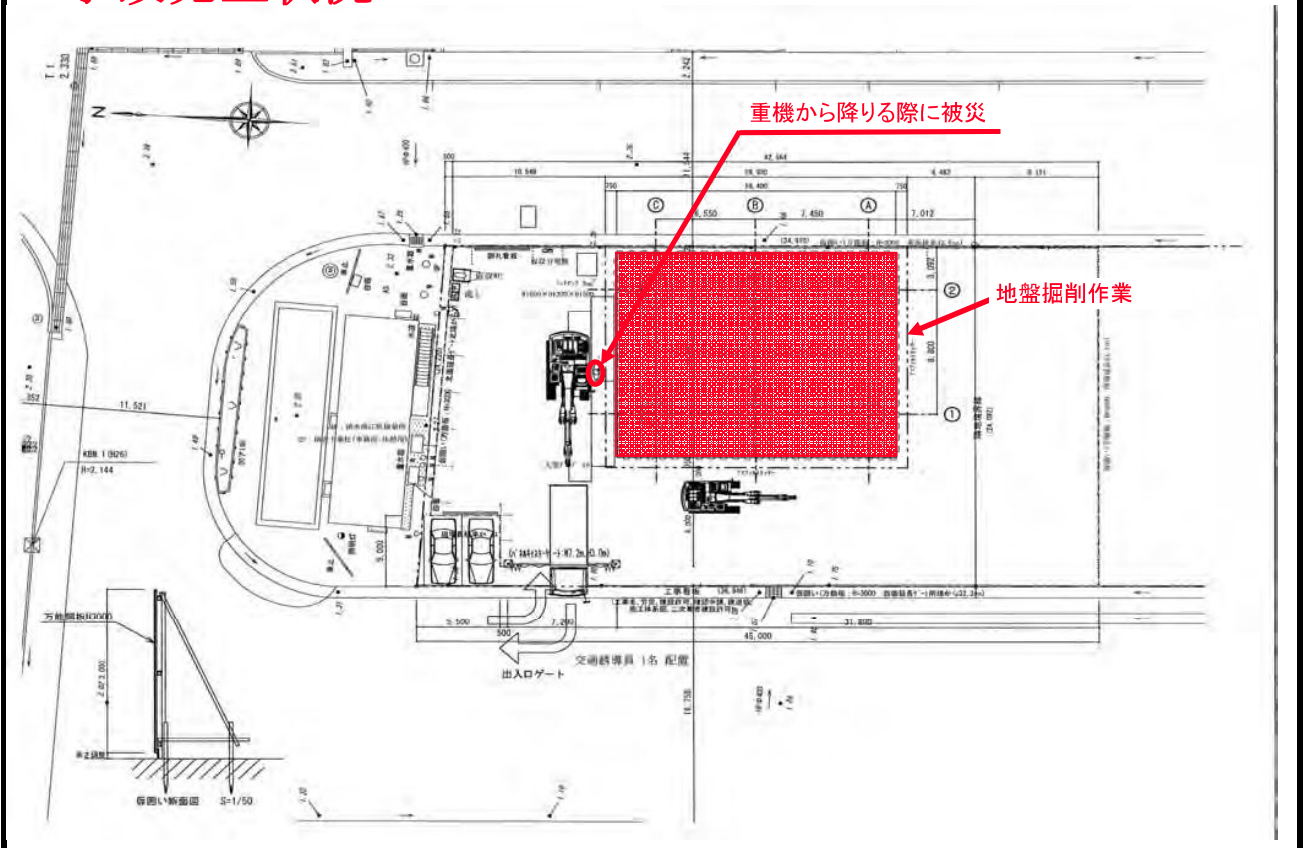
- ①足元を確認せずに着地した。
- ②重機への乗り降りという日常の慣れた行動のため、注意を怠った。

□防止対策：

- ①重機の乗降時に、指差し呼称を行ない、着地点の状況確認をして乗り降りする。
- ②重機の乗降時に目立つ場所(フロントガラス左下寄り)に、注意喚起を表示する。
- ③ヒヤリハット報告書を活用して、作業員全員で危険個所の共有・確認を図る。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

事故発生状況



事故周知・再発防止〔平成28年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故発生状況

着地時に右足首を捻った。

再発防止対策③

ヒヤリ・ハット報告書

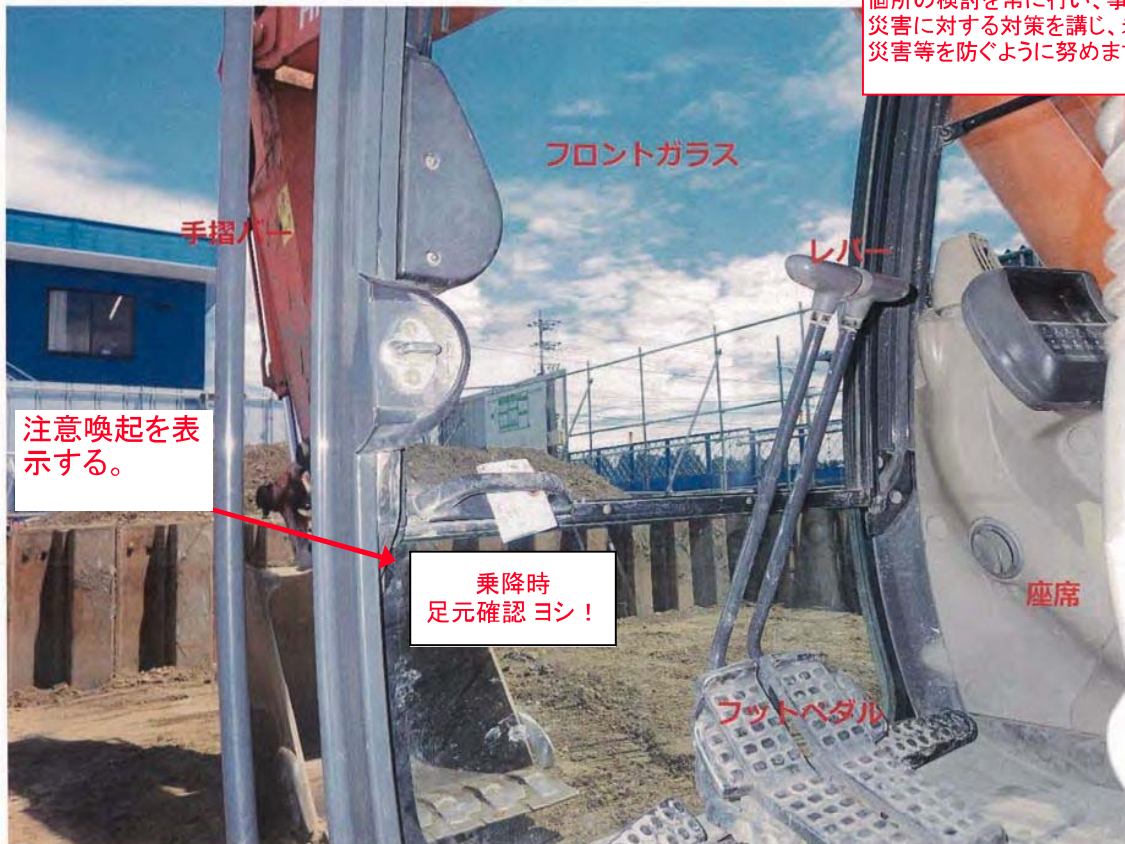
所属：(株) 精志工業社 氏名：橋本 慎一

- 1 いつ：平成28年7月27日(水) 午後 14時30分頃
- 2 どこで：現場内 掘削作業終了時
- 3 だれが：重機（B11）操縦者
- 4 どう様な状況の時に：重機から降りようと着地した時
- 5 ヒヤリ・ハットしたこと（予想される災害・事故）：整地板上に少量の土砂で足を滑らせ右足首を捻った。
- 6 報告者の対策案：重機の乗降時には、指差呼称を行い、着地点の状況確認をして乗り降りする。

上記について事業所長の対応・処理
 ① 重機の乗降時には、指差呼称を行い、着地点の状況確認をして乗り降りする。
 ② 重機の乗降時に目立つ場所（フロントガラス左下寄り）に、注意喚起シールを貼る。

※ この報告書は、「ヒヤリ」としたり、「ハット」としたけれども、事故や災害に至らずに済んだ出来事を報告するものです。ここでは、いつ・どこで、何が起きようとしたか発表して、その事例や起こりそうになった原因を見直すことで、事故や災害の予防にしようとするものです。小さなヒヤリ・ハットも見逃さず共有し、事前に対策を講じておくことで、大きな災害などを未然に防ぎましょう。

再発防止対策①②



注意喚起を表示する。

乗降時
足元確認 ヨシ！

ヒヤリハット報告書を使用し、作業
者全員で危険な作業方法・危険
個所の検討を常に行い、事故や
災害に対する対策を講じ、未然に
災害等を防ぐように努めます。